

ドリームティーンズコーナー通信

中高生の皆さんへ



今回のテーマ展示はコレ!!



1月10日(金)~3月12日(水)



「どんなものを食べているか言ってみたまえ。
君がどんな人であるかを言いあててみせよう。」
という言葉が有名になるくらい、
食べてるものって人にとって重要!
食べものに関する本を集めてみたので、
料理してみるのもよし、食べに行くのもよし、
ただ料理の写真を眺めるだけでも楽しいですよ。
たかが食べもの、されど食べもの。
食べものからひろがるいろいろな世界や物語に思いをはせてみてください。

(ちなみに冒頭のフレーズはフランスの美食家ブリア=サヴァラン(1755~1826)の言葉です。)

↓↓展示図書から一部本を紹介↓↓

『文人悪食』 嵐山光三郎／著

お札や切手になったり、ノーベル賞をもらうような小説家だって、生きているんだもの、やっぱりものを食べなければならない。妙なこだわりがあったり、異常な執着があったり、偉大な先生たちが急に身近に感じられます。

『フライパンで焼くだけ♪かんたん焼き菓子』 宮沢 うらら／著

特別な道具はいりません。フライパンが型になって、オーブンや電子レンジがなくてもおいしいお菓子が焼きあがります。火加減の見分け方や材料のはかり方も丁寧に説明されているので、お菓子作り初心者でも大丈夫。小さなクッキーからタルトまで、プレゼントにもおすすめです。

『かもめ食堂』 群ようこ／著

この本は、映画「かもめ食堂」のための書下ろし作品です。ヘルシンキの街角にある食堂を舞台として、ほのぼのとした空気感のなか、緩やかに話が進んでいきます。シナモンロールとおにぎりが食べたくくなりますよ。

新着ピックアップ

言語

『隣の国の人々と出会う 韓国語と日本語のあいだ』 斎藤 真理子／著
著者の斎藤真理子さんは韓国文学の翻訳者です。ノーベル文学賞を受賞されたハンガン氏の翻訳もされています。この本の中で、斎藤さんは、韓国語を学び始めた背景や、韓国語の魅力、現代史と文学の役割等について、私たちに優しく語りかけてくれます。韓国と日本の間にあるものについて考えるきっかけになる一冊です。

文学

『王朝の恋の手紙たち』 川村裕子／著
去年の大河ドラマ『光る君へ』でも重要なアイテムだった恋の手紙。今も昔も変わらないところもありつつ、当時ならではのトラブルや、届くまでに時間がかかることを逆手に取った高度なテクニックまで、現代人が失ってしまったあれこれがかかれています。

芸術

『イメージとレイアウトで探しやすい手描き文字&簡単イラストアイデア帳』
OSONO／著
すぐにマネできて、簡単かわいい文字とイラストがたくさん紹介され、ちょっとしたメモや、手帳のデコ、カードやPOP作成まで幅広く活用できます。見本もあるので「こんなふうに描きたい！」がすぐに見つかります。自分のために、誰かのために手書きを楽しんでみませんか。

言語

『その敬語、盛りすぎです！』 前田 めぐる／著
勉強していても、実際に使おうとするとちょっと難しい敬語。丁寧に言おうとして、少しおかしい日本語になってませんか？「盛りすぎ・へりくだりすぎ・失礼すぎ・流されすぎ」な言葉たちを、面白く、わかりやすく解説してくれます。

鳥取県立図書館

「ドリームティーンズコーナー」の
ホームページも見てネ！



鳥取県立図書館

☎0857-26-8155

2025年1月発行



【URL】<https://www.library.pref.tottori.jp/>